

1 学校教育目標

考える子（知） 心豊かな子（徳） たくましい子（体）

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・学力の向上に取り組む学校	・居心地のよい学校づくりに取り組む学校	・体力向上に取り組む学校
○児童・生徒像	・考える子	・心豊かな子	・たくましい子
○教師像	・授業改善を推進する教師	・児童の可能性を引き出す教師	・子供と共に汗を流す教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

[学校の現状]
 ○児童について 挨拶など気持ちよく行うことのできる児童が多い。その一方、校内外での生活指導上、問題行動の見られる児童がいる。
 ○教師について 若い教員や経験年数の浅い教員が多い。教科の専門性が高い教員が少ないので、その点意識改革をしていく必要がある。
 ○保護者・地域について 家庭や地域は学校に対し概ね協力的である。各種行事のアンケートを見ても、ほとんどの家庭が肯定的に受け止めている。

[前年度の成果と課題]
重点的な取組事項－1
 ・4月の区学力調査の通過率は国語 81.2%・算数 81.5%と、どちらも目標値の 80%を上回ることができた。
 ・定着度テストにおいて全学級正答率 80%以上は達成できなかった。AIドリルを活用した繰り返し学習などを効果的に取り入れていく。

重点的な取組事項－2
 ・「基本的な生活習慣」に関しては全学年 80%以上の児童が肯定的な回答をし、意識として根付いている。日々の生活の中でさらに意識を高めていく。
 ・「自己肯定感」の低い児童が多い。家庭と連携しながら一人一人の良さを伸ばす指導を実践していく。

重点的な取組事項－3
 ・都の体力調査の結果では都の平均値を上回る項目が増えてきた。さらに上を目指し年間を通じた体力向上の取組を実践していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	健やかな体の育成	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎学力の定着率向上と授業の質の向上を図る。		4月目標 両教科 85%以上 年度末目標 両教科 80%以上		4月:国語 83.9% 算数 83.9% 2月:国語 77.6% 算数 83.8%		4月の段階で区の平均値を超えることができた。なお、 <u>学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照</u>		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習	全児童 国・算	毎週 火～金 曜実施 始業前 15分	【指導者体制】 担任 【取組のねらい・目的】 学習内容の復習・確認 【使用教材】 AIドリル(Qubena)・自作教材 等	日々の授業 単元テスト等 到達度確認テ スト	年間を通じ、全 学年の漢字テス ト・計算テスト等 の正答率平均8 0%以上。	言語・漢字項目の平均 正当率が80%を超えて いた学級 13学級(18学級中) 計算の平均正当率が8 0%を超えていた学級 12学級(18学級中)	昨年度に比べるとかなり 向上したが、中学年 の国語と3年・5年の算 数で下回っている。 (正当率70%台) より丁寧に繰り返し指導 していく必要がある。	○
2 継続	放課後 補習	全学年 国・算 補習を必 要とする 児童	通年 放課後	【指導者体制】 全教員 【取組のねらい・目的】 基礎的・基本的な内容の定 着、現学習単元の補充 【使用教材】 既習内容のプリント・AIドリル (Qubena)等	日々の授業 単元テスト等 到達度確認テ スト	2月の確認テス トで国語・算数 共に正答率を1 0%以上アップさ せる。	4月より通過率を上げた 学年 国語 5学年中2学年 算数 5学年中2学年	4月よりも達成率を下げ ている学年が多い結果 となった。 弱点を洗い出し、補修 等を通して理解の徹底 を図る。	●
3 継続	AIドリル (Qubena)・I CT機器の 活用 [授業改善]	全学年 全教員	通年 授業の 中で計 画的に 活用	【指導者体制】 全教員 【取組のねらい・目的】 ICT機器を活用し、わかる授 業・児童が主体的に学ぶ授 業を行う。 【使用教材】 ICT機器・AI ドリル(Qubena) 等	週案等で活用 状況を確認	1日1回以上 AI ドリル・ICT 機器 を活用した授業 を行う。	AIドリル活用状況調査 では多い月で ・日1回以上 50% ・週1回以上 91% ・月1回以上 98% ・平均回答数 879 となっており、全ての項 目において区の平均値 を上回った。	AI ドリルの活用は十分 できている。 AI ドリルの活用が学力 の向上にどのように係 わっているのかを検証 していく必要がある。	◎

4 継続	授業力 向上	全教員 全教科	通年	【指導者体制】 全教員 【取組のねらい・目的】 主体的・対話的で深い学び の実現に向け、指導方法に ついて研究する。 経験年数5年未満の教員 は、教科指導専門員の指導 を受け、指導力の向上を図 る。	児童意識調査	区調査の「学校 での授業がわか る」「学校の授業 は楽しい」の項 目に肯定的に 回答した児童8 0%以上	「学校での授業がわか る」に関する項目 (肯定群回答割合) 2年 90.9% 3年 95.6% 4年 56.3% <u>5年 48.3%</u> 6年 38.5% 「学校の授業は楽しい」 に関する項目 (肯定群回答割合) 2年 89.8% 3年 95.6% 4年 92.0% 5年 91.4% 6年 85.9% ※下線は国・区の平均 値を下回っている項目	「学校の授業が楽しい」 と感じている児童の割 合がすべての学年で高 く、国や区の平均を上 回っている。 一方で、「授業がわか る」という点において は、区の平均は高学年 以外で上回っているも のの4年生以上から割 合が下がってきている。 わかったという実感を伴 う授業展開をしていく必 要がある。 より質の高い授業を行う ため、次年度から校内 研究を充実させる。	○
5 継続	小中連携	全教員 全教科	通年	【指導者体制】 全教員 【取組のねらい・目的】 研究授業を行うことで指導力 の向上を図る。 分科会ごとに研究授業を行 う。	児童意識調査	区調査の「学校 での授業がわか る」「学校の授業 は楽しい」の項 目に肯定的に 回答した児童8 0%以上			

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
児童の豊かな人間性を育成する。	目標実現に向けた取組の実施結果が 4項目とも「おおむね達成」以上	全ての項目で目標を達成することが できた。	次年度はさらなる向上を 目指す。	◎	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
道徳教育・特別活動 の充実	・意識調査の「自己肯定 感」の項目で80%以上の 児童が肯定的回答	・道徳の授業を中心とした全教 育活動における質の高い道徳 教育の実践。 ・年間35時間以上、道徳の授 業の確実な実践。 ・行事への児童の主体的な関わ りと、事前事後指導の実践。	「自分にはよいところがある」に関する 項目(肯定群回答割合) <u>2年 83.3%</u> <u>3年 78.9%</u> <u>4年 81.4%</u> <u>5年 72.0%</u> <u>6年 78.2%</u> ※下線は国・区の平均値を下回って いる項目 全学年・学級で道徳の授業年間35時 間以上の実施。(週案より)	5学年中3つの学年で区 や国の平均値を1ポイン ト程度下回っている。 道徳の授業だけでなく全 教育活動を通した道徳 教育を充実させ、児童の 自己肯定感や有用館な どを高めていく。	○

いじめ防止 不登校への早期対応	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末でのいじめ解消率100%。 ・不登校0、少なくとも前年度より減 ・「学校は楽しい」の調査項目で80%以上の児童が肯定的回答 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育プログラムを用いた人権に関する研修の実施。 ・毎週金曜に生活指導夕会を実施し情報を共有。 ・全教員での生活指導全体会を実施し情報を共有。 ・関係機関との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ(経過観察中) 4件 ・不登校児 12名 (12月末時点) 「学校に行くのが楽しい」に関する項目(肯定群回答割合) 2年 90.9% 3年 97.8% 4年 93.1% 5年 94.6% 6年 87.2% 	意識調査では全学年で目標を達成した。不登校0、いじめ0は現実として難しいところであるが、保護者や関係機関との連携を図りながら解消に努めていく。	○
「みそあじ」の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・意識調査の「基本的生活習慣」の項目で90%以上の児童が肯定的回答 	<ul style="list-style-type: none"> ・「身だしなみ、掃除、挨拶、時間を守る」の項目について、全校統一して指導をする。 	「学校のきまりを守る」に関する項目(肯定群回答割合) 2年 95.5% 3年 94.4% 4年 96.5% 5年 91.4% 6年 91.0%	全ての学年で目標を達成した。特に挨拶に関しては自ら挨拶する児童が増えてきている。	◎
読書活動の充実	年間読書冊数、全校で4万冊以上 図書貸出冊数、全校で2万冊以上	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館支援員、副校長補佐、SSSによる、休み時間等の図書貸出の充実 	年間読書冊数 集計中 図書貸出冊数 21,453冊 (12月末時点)	貸出冊数は12月末時点で目標を達成している。	◎

重点的な取組事項－3		健やかな体の育成			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
自らの健康と体力の向上を目指す児童を育成する。	目標実現に向けた取組の実施結果が、3項目とも「おおむね達成」以上	2つの項目で目標を達成することができなかった。	次年度も継続して取り組んでいく。	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力や運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・都の体力調査で「投力」「50m走」の項目で都の平均値以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・持久走旬間、短縄・長縄旬間等の体育的行事の年間を通じた取組。 ・体力を高めるための環境作り。 ・休み時間の外遊びの励行。 	平均値以上の学年(各学年男女別) 「投力」(4/12)※数字は学年 2女・5男女・6女 「50m走」(8/12) 1男女・2女・3男女・4男・5男・6男	「投力」「反復横跳び」以外の項目は昨年度より向上している。児童の体力を更に高めるための手立てを講じていく。	△
体育の授業の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・意識調査の「体育が好き」の項目で90%以上の児童が肯定的回答 ・都の体力調査の数値向上(前年比) 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修等を通じた体育科授業における指導方法の改善と、運動に親しめる環境や用具の工夫。 	「体育がとても好き・好き」(肯定群回答割合) ※4年以上 4年 97.7% 5年 91.4% 6年 83.3% 「一番好きな教科」(各学年1位) 2年 体育 3年 体育 4年 図工 5年 体育 6年 体育	校内研修等を通し、指導力向上に努めてきた。より楽しい授業づくりを推進していく。	◎

保健指導・食育指導の充実	・意識調査の「食事」や「睡眠」等に関する項目で90%以上の児童が肯定的回答	・保健指導や食育指導の充実。 ・養護教諭や栄養士と連携した授業の実施。 ・保護者会や各種便りを活用した保護者への啓発。	「朝食の摂取」に関する項目 (肯定群回答割合) 2年 97.7% 3年 95.8% 4年 95.3% 5年 95.7% 6年 88.5% 「自ら起床」に関する項目 (肯定群回答割合) 2年 73.6% 3年 77.5% 4年 70.9% 5年 79.6% 6年 74.4%	国や区の平均値をほとんどの学年で上回っているが、「睡眠」に関する項目では数値が低かった。家庭と連携を図り児童の健全育成に努めていく。	△
--------------	---------------------------------------	---	---	--	---

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて<重点的な取組事項－1>

【成果と課題】

- ・区の調査結果では昨年度より達成率を向上させたが、学校の目標値には届かなかった。国語は区の平均値をどの学年も上回っているが、算数は2・4・5年と3つの学年で下回っている状況である。達成率でいえば2年は90%、4年は80%を超えているが、5年の算数の達成率は74.2%と他学年に比べて極端に低い数値である。傾向を分析すると「割算」「分数の計算」「グラフ」「割合」といった問題の正答率が低い。

【対策】

- ・授業では、A Iドリルを活用し、繰り返し問題に取り組みさせることで理解の定着を図る。また、問題文を読み取る力も必要となるので、文章構成を意識したり、簡潔にまとめたりする学習を意図的に取り入れていく。
- ・朝学習では、短時間でできるように学習内容をピンポイントで絞り、A Iドリル等を活用し取り組みさせることで、基礎的な力を育成する。
- ・放課後補習では、一律の課題にせず個々の児童に応じた課題に繰り返し取り組みさせることで、弱点の克服を図る。

イ 豊かな心の育成について<重点的な取組事項－2>

【成果と課題】

- ・意識調査の結果から児童の基本的な生活習慣に対する意識が高まっていることがわかる。しかし、自己肯定感の低い児童がまだまだ多い。日常的に児童の良い点を「認め」「褒める」ことを意識的に行っていく。また、いじめ・不登校は、どちらも発生件数を0にする事ができなかった。

【対策】

- ・不登校問題の解消には家庭や関係機関との連携が不可欠である。今後も組織的な対応と、児童の状況把握に努めていく。

ウ 健やかな体の育成について<重点的な取組事項－3>

【成果と課題】

- ・ここ数年で体力調査の数値は伸びてきており、体育の授業の質の向上や縄跳び・持久走旬間の設定など学校としての取組に一定の成果があると言える。しかし、「走力」「投力」に関してはなかなか数値が上がらない状況である。
- ・体育が好きな児童が増えてきている。生涯スポーツの観点からも体育嫌いを作らないよう、今後も指導法や授業展開を工夫していく。
- ・生活指導主任を中心とした日頃の指導の成果として基本的な生活習慣に対する児童の意識は高まってきている。

【対策】

- ・取り組みせ方や場の設定方法を研究し、いかに児童の体力を向上させるかを真剣に考えなくてはならない。そのための研修を充実させていく。
- ・望ましい生活習慣の定着には、各家庭の理解と協力が不可欠である。これからも児童への指導と共に家庭への啓発を継続して行っていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

保護者や地域の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をしていただき感謝しております。今年度も実施方法を工夫して運動会や音楽会などを実施いたしました。実施方法について色々課題はありますが、学校の様子、子供たちの頑張りを少しでもお見せすることができたのではないかと思います。今後はコロナ期間で得た経験を基に教育活動全体を見直し、保護者や地域の皆様と連携しながら、児童の健全育成に努めていきたいと思ひます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

本校は長年、学力向上が課題となっていたが、ここ数年の取組で着実に力を着けてきている。しかし、2月の調査ではほとんどの学年・学級で達成率が下がってしまっている。学年により多少の傾向の違いは見られるが、国語が十分定着していない学級が多い。今回の結果を基にしっかりと分析を行い、学力向上を図っていく。